



台風 18 号 南黒田で道路冠水！



住田 英次 議員

急がれる雨水対策は

問 迅速な土のう対応は。

答 総務部長

町としては、消防署・消防団とともに住民からの要請により土のうを配備している。要請が集中すると搬送できない事態も発生している。今後は、土木業者に土のう作成や搬送の委託を検討している。

土のうの配備はできるだけ自分で取りに来ていただくよう、周知しているが、高齢者など取りに

来るのが困難な方について

は、搬送はやむを得ないと考える。搬送を希望する場合は、早めに町や消防署に要請していただきたい。

問 常態化している土川周辺の浸水対策は。

答 産業建設部長

特に浸水被害の大きかった筒井・北黒田地区の雨水排水は、小規模な排水路を経て長尾谷川の河口部へ流入し、松前港

へ排水される。

当該地区の地盤高は1メートル程度の場所もあり、満潮時には自然排水が困難な低地となっている。

このため、潮位が高い時には、排水ポンプで、※内水排除をしている。このポンプは、農作物の湛水被害を防止する目的で整備した施設のため、都市的な土地利用となっている筒井地区では排水能力も不足している。

また、北黒田地区の土川及び早船川にも小規模の

排水ポンプが設置されているが、いずれも大幅に排水能力が不足している。

このことから、浸水常襲地区の被害軽減を図るため、今年度は筒井地区を対象に、地理的な弱点や水路のネック箇所を的確に把握し、既存の排水路網やポンプ施設を有効活用する前提で、効果的でかつ財政的に実行可能な浸水対策計画を策定する予定。

その計画に基づき施設の改修を行い、浸水軽減効果を検証し、北黒田地区の浸水対策計画も立案したい。

※内水排除とは、堤防内の河川の水を「内水」といい、堤防内であふれた水を排除すること。

『ご当地ナンバープレート』の検討は

問 町のイメージアップ、町長のすすめている「おしやれなまちづくり」の一つとして検討は。

答 町長

「ご当地ナンバープレート」については平成19年に松山市が全国で初めて

導入して以来、各地で大きな反響を呼び、現在、県内においては、7市4町が導入している。

「ご当地ナンバープレート」はその地域の魅力が表現され、市町の「シティセールス」の一環として捉えられている。作成までには相応の予算措置が

必要であるほか、思うような効果が得られない可能性も想定される。町として「ご当地ナンバープレート」は住民の地域への愛着を深める効果等も期待できることから、他市町も参考に、費用対効果も考え前向きに検討したい。



いろいろあるよ。
ご当地ナンバープレート